

つむ
羊毛で紡ぐ地域のきずな本部 享司 さん
Kyoji Motobe藤原 富美子 さん
Fumiko Fujiwara「宝木みどりの会」
「ひつじかい」

2匹の羊「くろ」と「しろ」

2匹の羊

国道9号を西に進み、白兔海岸を過ぎて、トンネルを4つくぐると、気高町宝木地区があります。この地区を流れる河内川の河川敷には、地元の人から「くろ」と「しろ」と呼ばれている2匹の羊が飼われています。宝木地区では、この羊が取り持つて地域おこしの輪が広がっています。

本部さんが代表を務める「宝木みどりの会」が設立されたのは10年前。初めは植樹が目的の会でした。宝木には

大きな木は少ないそうで、奥さんの「鷲峰山があつて、河内川が流れていて、JRが走っていて、そういう宝木の風景を木の下で孫と眺めてみたい。きつとみなさんもそう思っているよ」の一言が、この会を作ったきっかけとなつたそうです。木を植える活動をしているうちに、河川敷にアシやクズが繁つて、水辺に近づけなくなっていることに気が付いた本部さんたち。以前に講演で聴いた、島根県の川本町の取り組みを思い出しました。川本町では、羊を飼

い、草を食べさせ、毛をとっているとのこと。「同じように羊に草を食べさせればいいのか」ということで、早速みどりの会のメンバーと一緒に視察に行き、2匹の羊を飼いはじめました。

羊毛紡ぎに四苦八苦

羊を飼うと毛刈りをしなければなりません。「刈った毛のことまで、全く考えていなかったんですよ」と本部さんは笑います。相談を受けた公民館主事の藤原さんは「おもしろい話なので、すぐに公民

館事業として『羊の毛紡ぎしませんか?』と呼びかけを行いました」と当時を振り返ります。メンバーも集まり、羊毛を紡ぐ「ひつじかい」の活動が始まりました。4年前のことです。

何をどうすればいいかわからないところからのスタートです。メンバーでまた川本町に研修に行きました。羊毛を紡ぐと言っても、毛を洗う、「カーディング」と言つて、紡ぎやすいように毛の繊維方向を整える、糸を紡ぐ、機を織る、などの工程があります。

佐治天文台長

こうさいひろき
 香西洋樹の「暗い夜空が教えるもの」

Vol.19 光の広がり



国立天文台堂平観測所（埼玉県）からの眺め（1967年2月）

2008年2月18日付けの日本海新聞に「佐治町でソラクライ・プロジェクト 光害防ごう 天文学や温暖化防止に一役」と題した一文が掲載されました。紙面には、佐治町総合支所がインターネットのホームページに掲載しているポスターも紹介され、^{ひかりがい}光害の防止に取り組む佐治の姿勢が紹介されてました。

筆者が現役時代に勤務していた東京天文台は、東京三鷹に当時の港区麻布から大正末期に暗い夜空を求めて移転してきました。東京の夜空が明るくなって天体観測に適さなくなってきたからです。三鷹に移ってからおよそ35年、三鷹も観測に不適になるという始末。そこで、日本各地に適地を求めて、ついに岡山県の南部に大口径の望遠鏡を設置、さらに東京近郊の埼玉県西部に観測所を設置しました。この埼玉県に設置した観測所から見下ろす関東平野にはまだ暗い夜空が残り、頭上の星は美しくまさに星に埋まっているような感じでした。1967年2月の夜、私はこの観測所から東京方面を見下ろした写真を一枚撮影しました。関越自動車道の建設が始まっていたのです。画面の中央に、東京タワーのシルエットが写ったこの一枚の写真が、日本の夜空の現状を多くの人に認識させるきっかけになったのでした。

見上げてごらん



カーデイング（左手前）、糸紡ぎ（左奥）、機織り（右）の各工程

「糸が紡げないといふにもならないんですが、これが本当に難しいんですよ」と藤原さん。本部さんも「2日目に少し紡げるようになってきたんですが、こんなことでこれくらいうまくいくでしょうかと心配になりました」とその時の心境を思い出し、苦笑い。

地域をおこし始めた羊

植樹から羊飼いへと「宝木みどりの会」の活動は変わりましたが、地域とのつながりはますます強まったようです。

河川敷の草は、2匹の羊が食べたり、会のメンバーが草刈りを行ったりして、徐々にきれいになってきました。羊の世話は12人のメンバーが交代でやっていて、本部さんは木曜日の当番。「この日の当番は3人とも小中学校の同級生なんですよ。この歳になっ

たらあまり顔を合わせることもないでしょうが、羊を飼うことでこうしてみんなが元気なことを確かめ合うことができるんですね。それがうれしくて」。

「ひつじかい」も、刈り取った毛を用いて、機織り機でタペストリーを作り、文化祭で展示するなど、地域での活動の範囲を広げています。「将来はかばんとか服とか、立体的なものを作りたいですね。ただ、織り機が足りないんです。昔の不要な織り機が残っているお宅があったら教えて

くださいね」と藤原さん。

先日、通学する列車の中で高校生が「今日も羊が見えたね」と話していたということを知った本部さん。「羊の存在が癒しになってるんですね」と目を細めます。地域をおこし始めた2匹の羊。「宝木みどりの会」と「ひつじかい」の活動は、「羊毛効果」で地域をますます温かくしてくれることでしょう。

織り機についての問い合わせ先
 宝木地区公民館 藤原
 ☎ (0857) 82-2407